



子供の思い 分かったかな!? 大人の思い 伝わったかな!?

学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）と地域学校協働活動を結び付け、学校と地域社会が同じ方向を向いて、子供を育てることはとても大切であり、難しいことでもあります。

学校は、教育方針や教育活動の取組・子供の状況などを家庭や地域社会に説明し、理解を得ると、家庭や地域社会からの要望に応えることが重要です。

地域社会は、自分のこととして地域の子供の良さや課題を受け入れ、一体となって子供たちを育むための具体的な活動を展開することが必要です。

本号では、子供と地域住民と教職員が一同に会し、心を砕いて話し合う中で、それぞれの思いを知り“地域のつながり”を深めた錦中学校区拡大学校運営協議会（熟議）の様子を紹介します。

【錦中学校区】小規模校の良さを生かすことで、子供の自己肯定感を高める

① 全員参加の会議となるような、綿密な計画

- ・ 錦中学校・錦清流小学校・宇佐川小学校の教職員全員(25人)、錦中学校の生徒全員(28人)、地域住民(各校の学校運営協議会委員、錦町地域おこし協力隊、岩国高校広瀬分校…(18人)が参加
- ・ 学校地域連携カリキュラムの見直しに生徒が参加するために、授業時間の14:00～15:50の開催
- ・ “ファシリテーター（参加者全員から意見を引き出し、最終的に合意を得る役割）が進行の中心” “会議の主役は中学生と地域の方”など ポイントを明記した話合いのマニュアル



全体会の説明をした 田山満則 錦中学校長

② 体育館を活用した、話しやすい空間の設定

- ・ 1グループ12～15名、全体で5グループ編成
- ・ コロナ対応も加味し、体育館全体を活用し、ホワイトボードを中心に半円型の隊形



※ 人の顔がよく見え、発言(言葉)の意図や思いが

地域の方の前で、堂々と発表する生徒

しっかりと伝わり、会場全体がしだいに和らいだ雰囲気になっていった。

③ 子供を主役にする話合いの進め方



1対1で、思いを語り合う

- ・ テーマ「小学校に入学してからの 学習や行事等で 思い出に残っていること」は、生徒が考えやすいものだった。
- ・ 思い出を付箋に書き込んだものを、一人一人が自分の思いや考えを加えながら発表し、学校地域連携カリキュラムの4つの柱に分類して貼る活動は、生徒に分かりやすかった。
- ・ 大人が、うなずいたり、「なるほど、いいね」とつぶやいたり、子供の発言を認め、価値づける姿勢が数多く見られた。

◎ 会の進め方のよく分かる 具体的な資料を紹介します！

< 実施要項 >

錦中学校区拡大大学校運営協議会《熟議》実施要項（改訂）		
1	ねらい	
	(1) 学校・地域の関係者が集い、熟議を行うことで、地域や子どもの現状・課題を明確にし、共有する。	
	(2) 小学校に入学してからの学習や行事等で思い出に残っていることを挙げ、カリキュラムの4つの柱のどこに該当する内容なのかを考える。	
2	日 時	令和4年5月19日（木）14:00～15:50
3	会 場	岩国市立錦中学校 体育館
4	受 付	体育館入口（受付開始13:40）
5	駐車場	グラウンド（自家用車は西側出入口から出入りする）
6	日 程	
	時 間	内 容
	13:40	受付開始（体育館入口） ・受付名簿で会場（ブース）を確認する。
	14:00	全体会説明（田山） ・熟議の意義、昨年11月の振り返り ・熟議の内容及び方法について
	14:15	各グループ熟議（5班） 【前半】中学生がこれまで経験してきた行事等やその説明について記入したカードを4つの柱の枠に貼り付けていく。（40） 【後半】地域の方は、手持ちの連携カリキュラムを参考に、その行事等の意義や何が出来るようになったのか等について深掘りする。（20） ※参加者（A3 白黒）、班（大判白黒）
	15:15	【まとめ】各班の熟議内容をシェア 5班×3分
	15:35	指導助言：岩国市教育委員会 生涯学習課に依頼中
	15:50	終了

< 地域の方向けの 話し合いの進め方 マニュアル >

地域の皆さんへ

今日の話し合い「錦中学校区拡大大学校運営協議会《熟議》」について

本日はお忙しい中、お越しいただきありがとうございます。
ご参加の地域の方には、生徒の意見を引き出すようにご支援をお願いします。もちろん、経験や思いなども語っていただきたいと思います。

1 本日の熟議のねらい

ア 地域住民（大人）と中学生が話す。
イ 中学生が学校や地域の行事や活動で学んでいることを知っていただく。（確認する）
ウ 昨年度つくったカリキュラムとこれまでの活動を比較する。（点検する）

2 今日の話し合いの流れ

① 中学生が付せんに書いてきた印象に残っている行事や活動を発表するので、聞いてください。（一人5つ以上書くようにお願いしています。）
② その活動は「具体的にどんな活動なのか」「どんなことを感じたか」「何ができるようになったか」など質問していただいて、その活動をした意味をお互いが確認してください。（ざっくばらんに話してください。質問例は別にお配りしているカリキュラム表にのせています。）
③ それぞれの活動が昨年度つくったカリキュラムの4つの柱のどれに関連しているのかをお互いに確認してください。（微妙なものもあると思います。その場合はその他に）

中1
平瀬ダムの見学
ダムは自然環境を守るもの

付せん

カリキュラム		拡大したカリキュラム				
4つの柱	小1、2	小3、4	小5～中1	中2、3	高校	
学び						
環境教育						
地域連携						
未来創造						
その他						

たとえば、昨年度行った平瀬ダムの見学であれば、環境教育の中2のところの「よりよい環境づくり」に貼られるのかもしれませんが。
※ ①～③を全員分繰り返してください。（1グループに中学生は4、5人いる予定です。）

④ 全員の発表が終わったら全体を見て、付せんが貼っていないところで、行事や活動がないか中学生に聞いたりしてください。地域の方からこんなものがあると教えていただいてもかまいません。

3 全体で意見を共有

※発表は拡大したカリキュラムの紙をタブレットで撮影して、ステージ上のスクリーンに映しながら行います。「行事や活動」と「どこに貼ったか」ということに加えて、その結果としてカリキュラムに加えた方が良かった、表現を修正した方が良かったことなどをマジックで書き込んだりしておいてください。中学生の発表のサポートをお願いします。

◎ 話し合いの後の感想です！

子供と地域住民の心の距離が縮まり、つながりが深まり、「地域を大切にしたい」という前向きな思いが伝わってきます。地域とともに子供を育てるという教職員の意識の高まりも感じます。

地域に合ったテーマをもって話し合うことは、大人にとっても子供にとっても楽しいことです。

様々な人との出会い・つながりが地域を輝かせる出発点となったようです。

< 地域住民の声 >

- ・中学生の発言が生き生きとしてよかった。
- ・多世代の人と交流し、コミュニケーションを深めるとよい。
- ・今後も熟議を続けていくことが必要です。
- ・錦についての話題が多かった。美川にもクローズアップして熟議していく必要がある。
- ・子供はもっと地域のことを学ぶ必要がある。



< 教職員の声 >

- ・生徒が錦・美川の良さや自慢を多く発表し、地域の方が詳しく話して下さって理解が深まった。
- ・生徒も企画運営に関わった行事は思いも強く、自己肯定感にも大きく影響を与えていると感じた。

< 生徒の声 >

- ・自分の意見を発表して、新しく錦について知れたので良かった。
- ・今の錦町にはどんな課題があって、私たちがどういうことをしたらいいのか知ることができた。
- ・地域の人と話し合い、錦・美川は20年後、30年後には無くなってしまいうという話を聞いて、僕たちは地域の担い手となって、守っていかなければいけないと思った。
- ・地域の未来を考え、それに向けて何かできるようになりたいと思った。地域の人の意見を聞いて、つながりが深いことが分かった。